

第2回噴火湾ホタテガイ情報 (2012年) (増補版 (貝毒フラクソン情報))

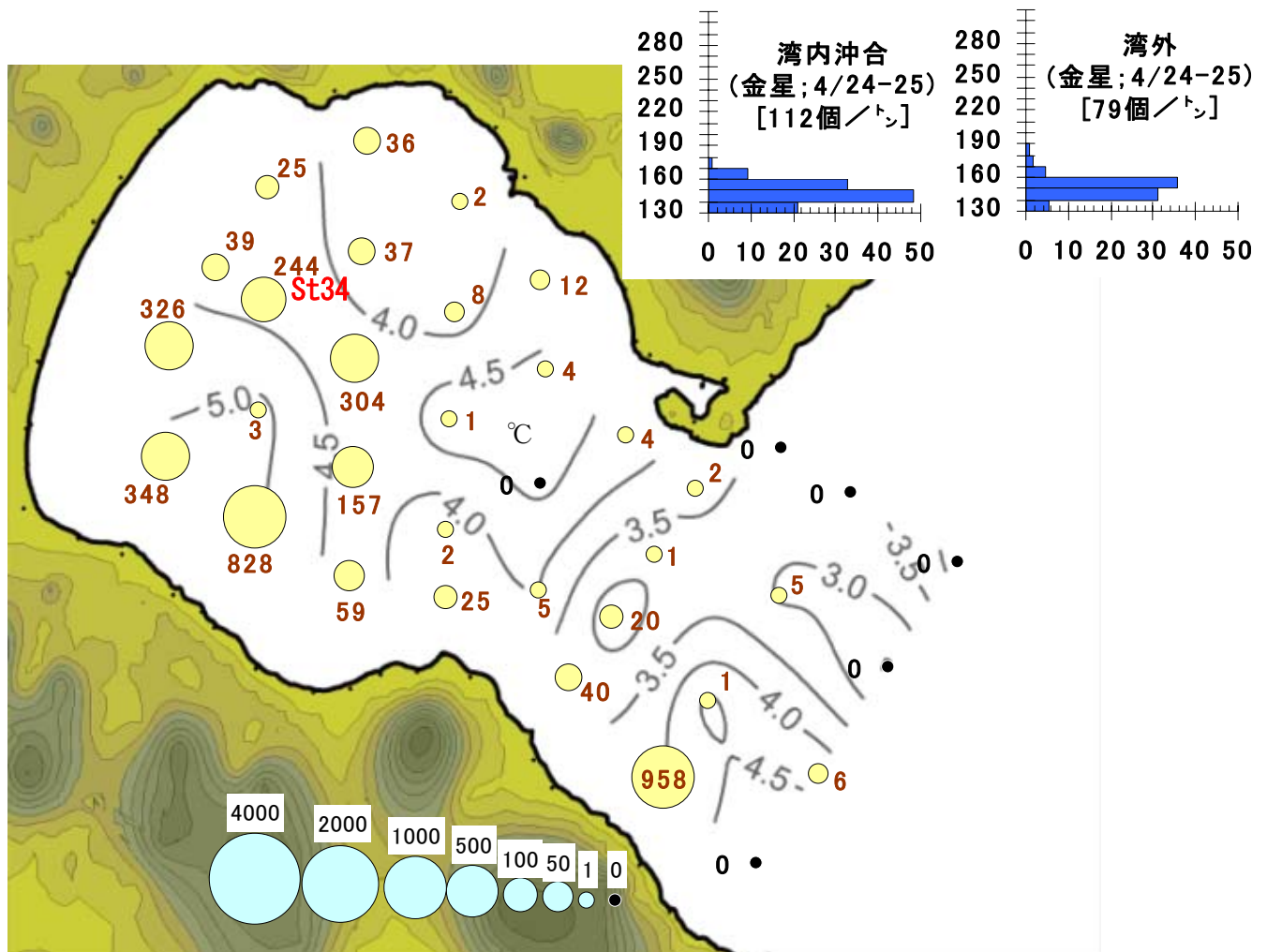
発行日：平成24年4月27日

函館水産試験場・栽培水産試験場・釧路水産試験場、胆振・渡島北部・渡島中部地区水産技術普及指導所

比較的水温の高い八雲～落部沖と鹿部沖に多くのラーバが観察されました。

図1. ホタテガイラーバの分布状況(4/24-25)、

丸の大きさと添付数字はラーバ密度 (個/ト)、灰色曲線と数字は深度10mにおける等水温線と水温 (°C)。



【概要】 4月24～25日に、函館水産試験場の金星丸により、噴火湾のラーバ及び環境調査を行いました。深度10mの水温が5°C以上と比較的暖かい八雲～落部沖に高密度のラーバ(348～828個/ト)が観察されました。また、湾外の鹿部沖にも4.5°Cと湾外としては比較的暖かく、ラーバも高密度(958個/ト)の地点がありました。ラーバの殻長は主に130～150μmで、小さい個体の割合が高い状況です。

湾口を横断する方向に水温の等値線が分布しており、今のところラーバが流出するような状況にはありません。

各地区の水産技術普及指導所の「ホタテガイ採苗情報」では、胆振側で生殖巣指数の低下が報告されており産卵が始まっていますが、渡島側では生殖巣指数の低下は見られておらず産卵はまだ始まっていないようです。八雲～落部沖のラーバは胆振側から流れてきた可能性もあります。

今後、水温の上昇とともに、ラーバが増えていくと考えられます。各地区水産技術普及指導所の採苗情報を参考にして、採苗作業の準備をしてください。

次回の全湾のラーバ及び環境調査は、連休明けの5月7～8日に、函館水試金星丸で実施する予定です。

(連絡先： 北海道立総合研究機構 函館水産試験場 調査研究部 管理増殖グループ 馬場・渡野邊・金森)

この情報は函館水試のホームページからもご覧いただけます。 <http://www.fishexp.hro.or.jp/exp/hakodate/>

【環境情報】

最深地点の水温は、表層でやや高く 5.6℃、深度 30m 以深はほぼ一定で 2.5~2.7℃です（図2）。溶存酸素は最深部で 5.3mL/L と十分ある状況です（貧酸素の目安は 2~3mL/L (2.8~4.2mg/L)）（図2）。

湾内 20m 以浅の水温は 4~5℃で（図3）、産卵の目安の 5℃の水塊が今後増えていくと考えられます。

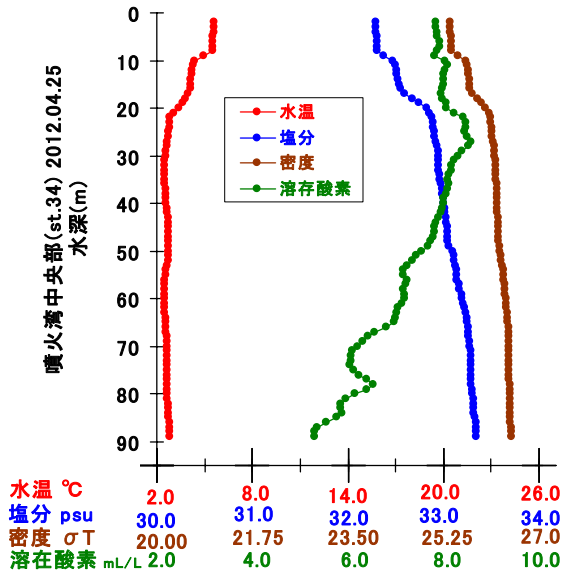


図2. 最深地点 (st.34) における水温・塩分・密度・溶存酸素の鉛直分布

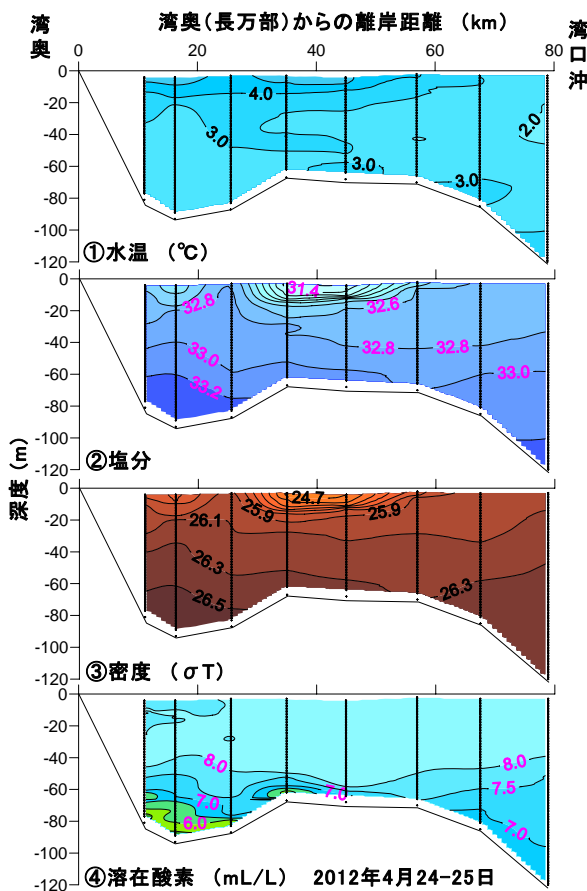


図3. 噴火湾縦断面の環境変量分布

【貝毒プランクトン情報】

（麻痺性）図4に今年の麻痺性貝毒プランクトンの出現状況を過去と比較しました。今年は、2007年並みに出現が早かったものの、出荷規制に至るほどの毒化はなく、現在(5/1)まで出荷規制は実施されていません。特に、噴火湾東部（胆振側）の虻田では現在は麻痺性貝毒プランクトンの出現がなく(4/23調査)、今後すぐに高毒化する心配はなさそうです。

過去の出現状況から、今年のように麻痺性貝毒プランクトンの出現開始の早い年はあまり高毒化せず、出現開始が遅く6月下旬まで出現が続く年になりに高毒化しています。出現開始が早く、3月下旬から出荷規制が実施されるほど毒化が進んだ2007年は例外的と考えられます。これらの事から、今年はそれほど高毒化しないと予測されます。しかし、今後の麻痺性貝毒プランクトンの出現状況によっては高毒化の可能性もあります。今後の貝毒情報に注目してください。

（下痢性）（図なし）下痢性貝毒プランクトンでは、アキミナタという種類が3月下旬から多い状況にあり、噴火湾西部（渡島側）で自粛規制が実施されました(4/7~4/27)。現在は規制は解除されています。原因プランクトンのアキミナタは虻田沖や森沖では大きく減少している事から、今後すぐに下痢性による出荷規制が再度実施される可能性は低いと考えられます。

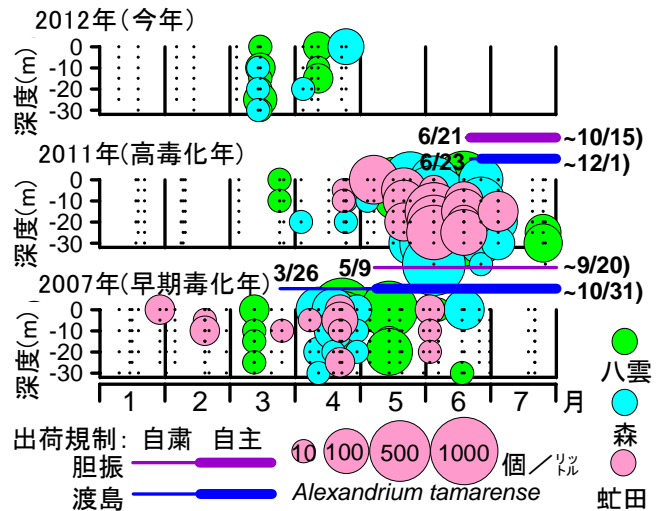


図4. 麻痺性貝毒プランクトン（タマシ）の季節変化の年比較 {2007年は毒化が早くベビー（耳吊りの残り）の出荷が規制された年、2011年は1995年以降で2004年に次いで2番目の高毒化年}

注）貝毒プランクトンの出現動向の予測は非常に難しいものです。ここに記載した予測等は、過去のデータに基づくものですが、外れる可能性もあります。それを念頭に、出荷計画等の参考にしてください。